

株式会社光電社 本社ビル



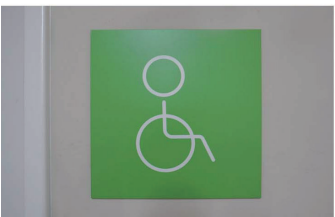
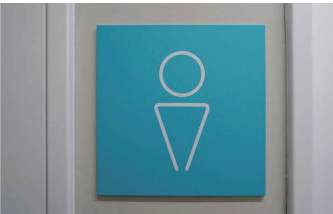
外観

総合設備サービスを展開する「株式会社光電社」の本社ビルは、神奈川県横浜市に立地する地上7階、地下2階建てのオフィスビル。オフィス全体の改修を終えたタイミングで、トイレの改修も実施した。



執務エリア

執務エリアはフリーアドレスを採用。適度に開かれた打合せスペースや、人々が出会い会話が生まれるきっかけとなるカフェスペースなどが整備されており、多様なワークスタイルを創造できる環境が整えられている。

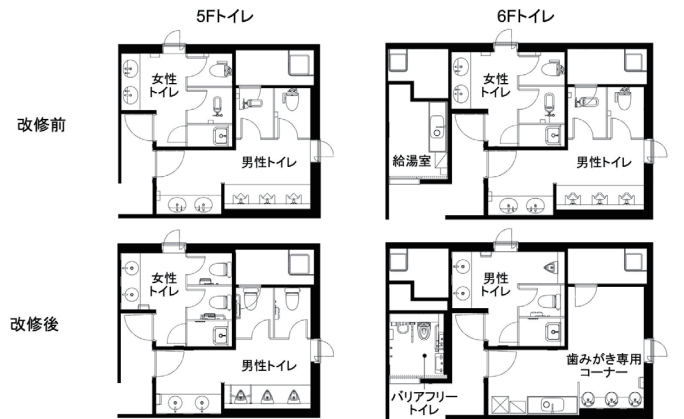


トイレサイン

オリジナルで作成されたピクトグラム。ひと目でわかりやすいデザインを採用し、利用者に配慮している。

トイレ図面

大便器はすべて洋式便器に変更し、利用者に配慮して、大便器、小便器ともに手すりを1ヶ所設置。6Fは給湯室を移設してバリアフリースイートを新設。男性トイレを菌みがき専用コーナーに変更している。



水まわりの特長

改修の経緯

「株式会社光電社」は、1946(昭和21)年に横浜市で創業した総合設備工事サービス会社。本社ビルは築後約35年以上が経過し、トイレ設備の経年劣化が目立っていた。さらに、従業員へアンケートを実施した際に、トイレの清潔さや水まわりに関する要望があがっており、従業員に喜ばれるだけでなく、求職者にも選ばれる会社を目指してトイレ改修を計画。このたび、短工期の和洋リモデル工法を採用して洋式化を実現するなど、使い勝手を向上させた。また、将来的な利用を見据えたバリアフリースイートや、快適性の向上のための菌みがき専用コーナーを新設。今回のトイレ改修によって、社員の満足度向上と採用強化に繋がることが期待されている。

トイレの特長

改修前のトイレは、和式便器が残り、暗さや混雑、使い勝手などにも課題があり、従業員からの改善の声が多かったため、改修ではウェルビーイングの観点から「社員に喜ばれるトイレ」をテーマに、機能性の高い設備選定、空間の見直しに注力した。また、全洋式化はもちろんのこと、洗面コーナーに自動水栓や電気温水器などを採用して、トイレ全体の快適性を向上。6Fの給湯室を移設し、その既存スペースにバリアフリースイートを新設することで、多様な従業員に対応できるようになった。さらに、男性トイレがあった場所に、オーラルケアができるよう独立した菌みがき専用コーナーも新設。改修後は、清掃もしやすくなり、快適な環境維持が可能となった。

建築概要

名称	株式会社光電社 本社ビル
所在地	神奈川県横浜市中区富士見町3-7
施主	株式会社光電社
設計	TOTOアクアエンジニア株式会社
施工	TOTOアクアエンジニア株式会社
竣工年月	(改修)2025年5月
敷地面積	723.430㎡
建築面積	538.158㎡
延床面積	4,461.196㎡
構造・階数	鉄骨造・地下2階、地上7階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BM
ウォシュレットPS(便ふた開閉機能・擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5564系
柵付二連紙巻器-YH701/チャームボックス(汚物入れ):YKB102
自動洗浄小便器-UF5900R/マープライトカウンター(ボウル一体タイプ):MC60
菌みがき器-L595/自動水栓一体形電気温水器-REAH03B1RS28SK
コンパクトバリアフリースイートパック:UADAZ11R*A1A**1W
ペーパータオルホルダー:YKT300MN/化粧鏡:YMK52K

5F 男性トイレ
洗面コーナー

洗面コーナーには、コンパクトで清掃しやすいボウル一体タイプの洗面カウンターと、非接触で手洗いができる自動水栓を採用。鏡は、隣人の視線に配慮して個別鏡を採用している。

5F 男性トイレ
小便器コーナー

清掃性や節水性のよい壁掛型の自動洗浄小便器を採用。さまざまな利用者に配慮し、1ヶ所に手すりを設置。足元には、菌の繁殖によるにおいや汚れの発生を抑えるハイドロセラフロアPUを設置している。

5F 女性トイレ
大便器ブース

大便器は、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。大便器ブースの間仕切り壁を天井まで立ち上げ、プライバシーに配慮している。



6F バリアフリースイート

ワーカーだけでなく来訪者にも配慮し、給湯室だった場所にバリアフリースイートを新設。さまざまな身体状況の方に配慮できるよう、汚物流しを設置したコンパクトバリアフリースイートパックを採用している。



6F 菌みがき専用コーナー

6Fには、オーラルケアができるよう、個別鏡と菌みがきボウルを設置した菌みがき専用コーナーを新設。身繕いする場所としても利用できるようになっている。



改修前



築30年以上を経過した改修前のトイレは、清掃は行き届いていたが、和式便器が残っていたり、内装や設備の老朽化が目立つようになっていた。器具も老朽化が進み、メンテナンスや維持管理も課題となっていた。